

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 22 日現在

機関番号：32606

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370364

研究課題名(和文) マザリナード文書の電子化：古文書研究とデジタル環境の親和性に関する総合的研究

研究課題名(英文) Digitization of the Mazarinades : A comprehensive study on historical document research and affinity of digital environment

研究代表者

一丸 禎子 (Ichimaru, Tadako)

学習院大学・付置研究所・講師

研究者番号：80567313

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：東大コレクション『マザリナード集成』電子化の次の段階として、資料体のデジタル化により可能になる新しい研究環境を考察し、実際に応用した。マザリナード研究の分野で日本は世界に先駆けてデジタル化と研究用プラットフォームの公開を実現しているが(マザリナード・プロジェクト)、さらに次の点でより鮮明にそれを可視化することに成功した。資料体の非物質化によって閲覧利用の利便性と引き換えに失われる情報を展覧会等のオリジナルの展示によって補い(『マザリナード集成』展)、二つの国際シンポジウムを組織・運営し、マザリナード研究自体を活性化(フランス)、電子コーパスの利用に特化した成果発表(東京)を行った。

研究成果の概要(英文)：While we transformed the mazarinades of the collection of the University of Tokyo into a digitized corpus, we also conceptualized and constructed a research environment adapted to this dematerialized corpus. Based on digitization, our Mazarinades Project was designed to offer a platform for international research in the virtual space of the Internet, which did not exist before. We also made visible this exploration through three events. The exhibition of the Tokyo collection in a museum, which also made it possible to compensate for the loss of information generated by the dematerialization. The international symposium in France intended to conduct research on the Mazarinades themselves. And the Tokyo Symposium to show the fruits of the use of our Mazarinades Project digital corpus.

研究分野：17世紀フランスのフロンドの乱とマザリナード文書；萌芽期のメディアと世論の形成

キーワード：マザリナード フロンド デジタル化 17世紀フランス 歴史 デジタルアーカイブ 国際共同研究
研究用プラットフォーム

1. 研究開始当初の背景

(1) 「マザリナード文書」とは

本研究の対象とする「マザリナード文書」Les Mazarinades は17世紀フランスにおけるフロンドの乱(1648-1653)の際に出版され流通した文書である。

狭義においては時の宰相マザランを糾弾する文書だが、今日の一般的な理解では、のちにコレクターたちがこの名称のもとに集めた文書全体を指す。

印刷文書約5000種類、手書き文書約300種類が大小様々なコレクションを形成し、フランスのみならず、ドイツをはじめヨーロッパ諸国、パチカン市国、ロシア、アメリカ、そして極東では日本に大型コレクションがある。

(2) マザリナード文書の資料的価値

マザリナード文書はフロンドの乱の同時代人による直接的証言として歴史の第一次資料として位置づけられる。しかし、価値はそれだけにとどまらない。絶対王政確立前夜のフランスにおいてパリ高等法院や大貴族が王権に抵抗した最後の反乱といわれるフロンドの乱は武力だけでなく、印刷物を使った言論の戦いでもあった。その意味でマザリナード文書はフロンドの乱という歴史的事件の一部を構成する発言の集合である。

(3) 新しい研究領域を開く可能性

マザリナード文書の書き手には無名の作家に混じって、17世紀を代表する作家(レ枢機卿、シラノ・ド・ベルジュラック、スカロン等)も数多く見出され、表現の形式も当時流行であった詩形式のほかに散文、手紙、予言、国王宣言、高等法院の裁決等じつに多様な発話の形式が動員され、「世論」の形成を目指そうとする萌芽的なメディアの動きを示している。マザリナード文書の分析は、現代のインターネットを介したコミュニケーション、SNSによる情報共有、民衆を動員するポピュリズム等、今日の社会を考察する上でも有効な視点を与え、17世紀にとどまらない学際的な研究の発展をうながすだろうと考えられるのである。

(4) 資料体としての問題点：量と目録

量：マザリナード文書を資料として扱う場合の最も大きな問題はその量にある。この文書の最大のコレクションを有するフランス国立マザリーヌ図書館では2万5000点を超え、現存する文書の総数に至っては知ることができない。

目録：19世紀にセレスタン・モローが初めて全体の目録化を試み、補遺も含め4607種類を記録し、その分類番号が今日まで世界標準とされている(『*Bibliographie des Mazarinades*』1850-51年)。しかしながら、この目録はパリのコレクションを中心としているため、地方で出版された文書にはまだ十分な調査が及んでいない。そのためにいくつかの補遺が他の研究者によって出版されている。

(5) 先行研究

それでも20世紀後半には二つの記念碑的研究が出版された。クリスチャン・ジュオーによる歴史社会学的事例研究『*Les Mazarinades : la Fronde des mots*』(1985年)とユベール・キャリエによるマザリナード文書全体の総合的研究『*La Presse de la Fronde (1648-1653) : Les Mazarinades*』(1989-91年)である。これらが学術的に高い評価を得、資料体として注目を集めることになったが、にもかかわらず、その後の研究に進展が見られないのは、文書の量(キャリエはそれを「洪水」と呼んだ)に加えて、このように全体を見渡す目録がないこと、さらにコレクションとして地理的に分散し、図書館では貴重書扱いになっているため閲覧が困難である、つまり研究者のアクセスが制限されていることによる。

(6) 日本によるデジタル化とWeb公開

2011年に実現する東京大学コレクション『マザリナード集成』(全44巻2700点)のデジタル化(マザリナード・プロジェクト)と公開は、そうした状況にあって世界に先駆けて試みられたものである。

マザリナード・プロジェクトはユベール・キャリエの協力を得て1995年に始まる『マザリナード集成』の文献調査、ならびに本研究代表者の学位論文(「マザリナード文書とは何か-コーパスとしての東京大学コレクション」2006年)で述べられた構想に基づき、2008年、日仏両国の複数の研究者の協力のもとに着手された(2008年度採択課題番号20903010 研究代表者一丸禎子、2010年度採択課題番号22320066 研究代表者レポラル・パトリック)。

(7) 現在の課題

デジタル化により、マザリナード文書の物理的特徴に由来する問題の一部はこうして克服された。しかし、同時にいくつかの課題が明らかになった。デジタル化は古い資料を保護し閲覧の利便性を高める。古文書研究はその意味においてデジタル環境と親和性が高い。だが、研究活動を刺激し創造性に結びつけるには文書をアーカイヴのコンテンツとして公開するだけでは不十分なのである。実際、多くのデータベースが利用されないままに放置されている現状を考えると、デジタル化だけでは研究の活性化にはつながらない。デジタル化した資料を中心として、今後どのような新しい研究環境を構築していくのか、そのデザインが求められているのである。

2. 研究の目的

本研究は資料体としてのマザリナード文書固有の問題を解決しつつ、同時に次のことを目指すものである。

(1) デジタル環境における最新の知の集積、共有、公開の技術を活用することにより、古文書研究の新しい可能性が開けることを実

証する。

(2) マザリナード研究の Web サイトを日本がリードする学術研究のプラットフォームとして展開し、同時に徹底して可視化する。

(3) 仮想空間と現実空間を自由に越境する総合的な研究環境を実現し、国際的研究協力を含む真に学際的な研究モデルを提示する。

3. 研究の方法

(1) プロジェクトの可視化と3本の柱

本研究は2015年フランス、2016年東京の二つの国際シンポジウムと同時平行で開催される展覧会「マザリナード展」によりプロジェクトを可視化する。そのプロセスを次の3本の柱によって支える。

Web上のマザリナード文書電子コーパスの機能強化と研究サイトの充実。

東京大学コレクションの文献調査と展示準備。

研究サイトから発信するテーマ別研究の推進。

(研究グループのメンバーは以上の3つのいずれか一つもしくは複数に加わることにする。)

(2) 3本の柱の具体的内容

の柱：マザリナード・プロジェクトの電子コーパスは研究者が閲覧できるだけでなく書き込みもできる双方向性を備えている。これによって文献情報を絶えず更新して蓄積できる(それによって一般にも最新の知見を公開できる仕組みになっている)。デジタル化が終わった東大コレクション『マザリナード集成』2700点の重複する文書を除き、第一段階としてまずモローの4607点全部をWeb上で閲覧できるようにするには新たに撮影し転写してデータに加える必要がある。これらの作業をできるだけ技術者に依存せず研究者の手でコンテンツ化できるようにすることがここでの課題となる。

の柱：を助ける文献調査を行い、同時に東大コレクション『マザリナード集成』の「オリジナル」全44巻を初めて一般公開する準備のための写真撮影、パネル、スライドの作成等の作業を行う。ここではデジタル化という「非物質化」にともなって失われる情報をいかに最小限に止めるかの考察が行われる。

の柱：フランス、東京での国際シンポジウム発表予定者が各自、自分の研究テーマを定め、実際にマザリナード・プロジェクトのWebサイトを使い学術的成果を出す。東京でのシンポジウムでは招聘者にも同様の課題を求める。同時にこうして実際に研究者が利用することにより本研究の電子コーパスの不具合を検証する。

4. 研究成果

(1) 2014年：翌年のフランスにおける国際シンポジウムの準備のために実行委員会と学術審査委員会を組織し、そこで定期的にもたれた会合によりフランス国立図書館(BnF)

マザリーヌ図書館、アルスナル図書館、フランス学士院、パリ大学、ボルドー=モンテニュ大学、カーン大学、アルトワ大学、フランス国立古文書学校との間に緊密な国際研究協力関係を築くことができた。

マザリナード文書研究史においては、このような協力体制はこれまで存在しなかった。日本がその「場」を開いたということは非常に有意義であり、特筆に値する。

(2) 2015年6月：フランス学士院の後援を受け、マザリーヌ図書館、フランス国立図書館(BnF)、アルスナル図書館と共同で国際シンポジウム『Mazarinades : nouvelles approches』(マザリナード文書：新しいアプローチ)を開催した。この国際学会は6月10日から3日間開かれ、9カ国から31名の発表者が参加した(学術審査委員会に寄せられた論文数は70を超えた。)テーマの多様性のみならず学術的評価も高く、新領域として注目を集め、マザリナード文書を博士論文の研究テーマにする大学院生が出るようになった。日本からは4名の発表があった。

このシンポジウムの記録は翌年学術誌『Histoire et Civilisation du Livre』の特集号として出版された。

(3) 2016年10月：東京大学駒場博物館において日本では初めての一般向け学術成果発表としての展覧会「マザリナード集成：十七世紀フランスのフロンドの乱とメディア」を開催した。2ヶ月の会期中入場者は3717人。ほとんど知られていないテーマではあるが、東大総合図書館から出たことのないマザリナード文書の実物を展示し、最新の知見によって体系的に解説した意義は大きい。少なくとも国民の財産であるこのコレクションを一般の人にも認知していただけたことは重要である。関連企画として、目黒区生涯教育講座、東大駒場祭公開講座等があったが、特に丸善雄松堂木村潤一郎氏によるギャラリートーク「『マザリナード集成』購入の経緯」はコレクションの由来のみならず、日本の経済成長と貴重書購入の関わり、近代化と洋書輸入の歴史でもあり、研究の視野を広げることにつながった。

(4) 2016年11月3日：東京大学駒場キャンパスにて国際シンポジウム「L'Exploration des Mazarinades」(マザリナード探究)を開催した。

フランスからの5人の招聘者と発表内容
ヤン・ソルデ(マザリーヌ図書館館長)「マザラン、マザリーヌ、マザリナード：フロンドの乱の時代におけるヨーロッパ最大の図書館」

ジャン=ドミニク・メロ(BnF)「フロンドの乱の出版物：マザリナード文書と定期刊行物」

ミリアム・ツィンビディ(ボルドー=モンテニュ大学)「マザリナード・プロジェクトのコーパスに見るレ枢機卿」

ステファン・ハフマイヤー(カーン大学)「マ

ザリナード・プロジェクトのコーパスを使った政治批判文書における情報を伝える言語使用の分析」

ムレーヌ・フォリヤール(エクサンプロヴァンス大学)「言葉は殺す：マザリナード・プロジェクトのコーパスからわかる言葉の暴力性」

日本からの発表者

松村 剛(東京大学)「固有名詞マザランからの派生語に関する考察」

パトリック・レボラル(南山大学)「マザリナード・プロジェクトのコーパス検索：millionをキーワードにしてわかること」

エリック・アヴォカ(大阪大学)「共和国、民主主義等：マザリナード・プロジェクトのコーパスに見る政治体制に由来する問題とその反響」

モルヴァン・ペロンセル(中京大学)「王国、祖国、国：マザリナード・プロジェクトのコーパスからフランスを表す名称の考察」

一丸禎子(学習院大学)「マザリナード文書と今日の研究動向：日本から発信された研究」

(使用言語がフランス語だったため、日本語タイトルは内容を反映するように訳している。原題は以下の学会発表欄を参照のこと)
(5)11月5日：アンステティユ・フランセ東京にて映画と討論「ルイ14世の幼年時代」に協力した。

そのほか、パリ第三大学、カーン大学からの招聘を受けマザリナード・プロジェクトに関するセミナーと講演を複数回行った。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 6件)

松村 剛、「Remarques lexicographiques sur le mot mazarinade」、『*Histoire et Civilisation du Livre*』12号、pp.163-168、2016年、査読有

パトリック・レボラル、「Mensonge et tromperie dans les mazarinades」、『*Histoire et Civilisation du Livre*』12号、pp.169-185、2016年、査読有

エリック・アヴォカ、「Les mazarinades, une préface à la Révolution ?」、『*Histoire et Civilisation du Livre*』12号、pp.323-339、2016年、査読有

一丸禎子、「Enjeux de la numérisation des mazarinades」、『*Histoire et Civilisation du Livre*』12号、pp.77-89、2016年、査読有

一丸禎子、「マザリナード・プロジェクトの挑戦-古文書研究の新しい地平線をめざして」、『*学習院大学文学部研究年報*』第62号、pp.97-124、2016年、査読有

パトリック・レボラル、「Bordeaux dans les Mazarinades, approches méthodologiques」、『*Écritures de*

l' événement : les Mazarinades bordelaises』no 116, pp. 71-84, 2015年、査読有

〔学会発表〕(計 16件)

レボラル・パトリック、「Mazarin et l' Italie au miroir (déformant ?) des mazarinades」Mazarin, Rome et l' Italie (国際シンポジウム) 2017年5月12日、フランス国立古文書学校(フランス・パリ)

一丸禎子、「Les mazarinades de l' Université de Tokyo」2017年3月24日、IMEC(招聘講演)、アルデンヌ修道院(フランス・カーン)

松村剛、「Sur quelques dérivés du nom Mazarin」L' Exploration des Mazarinades (国際シンポジウム) 2016年11月3日、東京大学

エリック・アヴォカ、「République, démocratie, etc. : la question des régimes politiques et ses échos dans le corpus du Projet Mazarinades」L' Exploration des Mazarinades (国際シンポジウム) 2016年11月3日、東京大学

モルヴァン・ペロンセル、「Royaume, patrie, nation : les noms de la France dans le corpus du Projet Mazarinades」L' Exploration des Mazarinades (国際シンポジウム) 2016年11月3日、東京大学

パトリック・レボラル、「Sérendipité des millions dans le corpus du Projet Mazarinades」L' Exploration des Mazarinades (国際シンポジウム) 2016年11月3日、東京大学

一丸禎子、「Les Mazarinades et leur étude aujourd' hui : la place du Japon」L' Exploration des Mazarinades (国際シンポジウム) 2016年11月3日、東京大学

ヤン・ソルデ、「Mazarin, Mazarine, Mazarinades : la plus grande bibliothèque d' Europe dans la tourmente de la Fronde」L' Exploration des Mazarinades (国際シンポジウム) 2016年11月3日、東京大学

ジャン＝ドミニク・メロ、「Mazarinades et presse périodique à l' époque de la Fronde : pour une réévaluation」L' Exploration des Mazarinades (国際シンポジウム) 2016年11月3日、東京大学

ミリアム・ツインビディ、「Quelques représentations du cardinal de Retz, recherchées dans le corpus du Projet Mazarinades」L' Exploration des Mazarinades (国際シンポジウム) 2016年11月3日、東京大学

ステファン・ハフマイヤー、「Le langage de l' information dans les libelles du Projet Mazarinades」L' Exploration des Mazarinades (国際シンポジウム) 2016年11月3日、東京大学

ムレーヌ・フォリヤール、「Les mots qui

tuent : passages de la violence dans le corpus du Projet Mazarinades」、L'Exploration des Mazarinades (国際シンポジウム)2016年11月3日、東京大学
松村 剛、「Les mazarinades sont-elles une véritable mine pour les lexicographes?」、Mazarinades: nouvelles approches (国際シンポジウム)2015年6月11日、フランス国立アルスナル図書館(フランス・パリ)

エリック・アヴォカ、「Éloquence séditeuse et éloquence révolutionnaire : les mazarinades, point aveugle d'une culture politique moderne」、Mazarinades: nouvelles approches (国際シンポジウム)2015年6月11日、フランス国立アルスナル図書館(フランス・パリ)

パトリック・レボラル、「Mensonge et tromperie dans les mazarinades」、Mazarinades: nouvelles approches (国際シンポジウム)2015年6月10日、フランス国立マザリーヌ図書館(フランス・パリ)

一丸禎子、「Enjeux de la numérisation des mazarinades」、Mazarinades: nouvelles approches (国際シンポジウム)2015年6月10日、フランス国立マザリーヌ図書館(フランス・パリ)

[その他]

ホームページ等

マザリナード・プロジェクト電子コーパス

<http://mazarinades.org>

マザリナード国際研究サイト

<http://mazarinades.net>

東大マザリナード展【公式】Web版(Twitter)

<http://twitter.com/Mazarinades.jp>

国際シンポジウム「Mazarinades: nouvelles approches」の紹介(フランス国立マザリーヌ図書館HP内)

<http://www.bibliotheque-mazarine.fr/fr/evenements/actualites/mazarinades-nouvelles-approches-colloque-international>

国際シンポジウム「L'Exploration des Mazarinades」の紹介(フランス国立マザリーヌ図書館HP内)

<http://www.bibliotheque-mazarine.fr/fr/evenements/actualites/colloque-l-exploration-des-mazarinades>

6. 研究組織

(1)研究代表者

一丸 禎子 (ICHIMARU, Tadako)

学習院大学・外国語教育研究センター・講師

研究者番号: 80567313

(2)研究分担者

松村 剛 (MATSUMURA, Takeshi)

東京大学・総合文化研究科・教授

研究者番号: 0229535

ティエリー・マレ (MARE, Thierry)

学習院大学・文学部・教授

研究者番号: 60188654

パトリック・レボラル

(REBOLLAR, Patrick)

南山大学・外国語学部・教授

研究者番号: 50329744

エリック・アヴォカ (AVOCAT, Eric)

大阪大学・文学研究科・特任准教授

研究者番号: 20612261

モルヴァン・ペロンセル

(PERRONCEL, Morvan)

中京大学・国際教養学部・准教授

研究者番号: 90339630

(3)連携研究者

()

研究者番号:

(4)研究協力者(海外)

ヤン・ソルデ (SORDET, Yann)

フランス国立マザリーヌ図書館・館長

ジャン＝ドミニク・メロ

(MELLOT, Jean-Dominique)

フランス国立図書館(BnF)・古文書目録管理部門・統括責任者

ミリアム・ツィンビディ

(TSIMBIDY, Myriam)

ボルドー＝モンテーニュ大学・文学部・教授

ステファン・ハフマイヤー

(HAFFEMAYER, Stéphane)

カーン大学・文学部・准教授

ミシェル・ベルナル (BERNARD, Michel)

パリ第三大学・文学部・教授